

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/ユニット2階)

事業所番号	2794800116		
法人名	社会福祉法人 聖徳会		
事業所名	フィレールまつばら		
所在地	大阪府松原市阿保3-15-22		
自己評価作成日	令和4年1月7日	評価結果市町村受理日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者のこれまでの生活リズムや暮らしが継続できるよう、「その人らしく安心できる暮らしを目指して」をキャッチフレーズに、楽しく笑って過ごせる生活を目指しています。生活面では年間計画に沿って、季節感を味わいながら、また併設の小規模多機能ホームとも協力しながら明るく生活して頂けるよう努めています。健康面に関しては法人内の看護師や協力医療機関と連携を図りながら、健康増進に努めています。また、認知症ケアに対しては専門医やご家族様とも協力し合いながら、その人に合ったケアにつなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は明治35年大阪養老院として設立以来、高齢者介護施設や保育園を松原市内に数か所運営し、社会福祉法人として近隣住民から認知症介護の相談窓口として地域に親しまれている。コロナ禍の中で日々の事業所のレクリエーション活動計画を充実させたいとの職員の提案があり、季節の壁画や利用者の役割分担、事業所内での歩行訓練時間を増やすなど工夫しながら利用者が最後まで尊厳を大切に楽しく生活が送れるように職員が一丸となって取り組んでいる。法人理念の他に事業所の独自理念「個人を尊重し思いやりをもったケアに取り組む」「利用者が笑顔で過ごせるように介護職も笑顔でケア」の他に、毎月毎に月間目標を掲げて質の高い介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの事務所に理念を掲示するとともに毎月のフロア会議で唱和し、職員全体で理念を共有している。最後まで尊厳のある人生が送れるように日々のケアを振り返り、実践につなげている。	法人理念のほかに事業所理念、加えて毎月の月間目標を職員共に考え(職員には書面にて手渡し)て毎月のケアに結び付けている。理念は各フロアの事務所、玄関横のファイルに掲げ、職員会議や申し送り時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の防止のため地域との交流はできていない。	自治会に加入して民生委員から地域の情報を得ている。法人は地域との関係性が深く地域の認知症介護の相談で訪れる人もあり地域の相談窓口となっている。コロナ禍の中で中止となっているが1階の小規模多機能施設と合同の夏祭り、ボランティアの受け入れ、中学生の体験学習などの受け入れを行い地域の一員として日常的に交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談等のために来所された地域にお住いの人々に対して、丁寧な話を伺い認知症ケアについて助言を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できていないが、活動の様子や取り組みなどを資料にまとめて2ヶ月に1回、ご家族に郵送して報告している。	会議は奇数月の午後からと定例化されコロナ禍以前は家族(5名)、市の高齢介護課、民生委員、利用者、管理者、計画作成担当者が出席のもとに開催されプロジェクターを活用して日々の生活、運営、活動状況が報告されていたが現況は書面開催となっている。議事録は関係者全員に郵送されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3か月に1回身体拘束委員会にて会議を実施し、身体拘束廃止に取り組んでいる。また、事業所内において不適切なケアについての研修を実施し、職員一人ひとりが日々の援助を振り返り、お互いのケアについて話し合い、自身の課題を見つけサービスの質の向上に努めている。	市の高齢介護課、地域包括支援センターとは入所申し込み者の紹介、事故や更新手続き等で連絡を行い、困難事例時には訪問して相談している。今期はグループホーム連絡会が1回開催され出席のもとに地域の情報を得て活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束について」の研修を行っている。「帰りたい。」や「外に出たい。」と話される利用者がおられたら時間をずらし職員で対応を行っている。	身体拘束の指針の基に研修が年2回行われている。身体拘束適正化委員会が3か月ごとに開催され介護拒否の利用者(1名)の排泄介助や入浴介助について話し合いを行い時間をずらしたり職員や言葉かけの方法を変えたりしながらの支援体制の在り方を話し合っ適切なケアの在り方に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で高齢者虐待や身体拘束について研修を実施し、高齢者虐待・身体拘束防止委員会を設置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者もあり、今後も個々のケースに応じて支援していく。法人において研修も開かれており学ぶ機会が与えられている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に一つひとつ内容を確認し、説明を実施している。不明な点や疑問点については、ご理解いただくまで何度でも丁寧に説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時や電話の際など、サービス担当者会議で意見聴取する機会を設けている。ご利用者のケアに関することは直ぐに職員間で検討し、改善するようにしている。	12月中まではパーテーションパネル越しの面会を15分の時間制限の基に行っていたが現在は中止となっている。家族には居室担当者からの個別なお便りを郵送して日常生活情報を知らせている。	コロナ禍の中でテレビ電話での面会としているが、家族は居室の状況やどんな服装で暮らしているのか等、今一歩深く日常生活情報を知りたいとの要望が上げられている。家族の不安を少しでも解消できる面会のあり方について再考されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや毎月の職員会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理職からの面談の機会を設け、勤務や運営に関することをなど聞いている。	管理者は年2回の個人面談を行い悩みやシフトの要望にも答えている。職員会議(月1回)、フロア会議(月1回)の中で出された意見や提案(レクレーション、行事に関して)では1月度は獅子舞のかぶりを材料から購入して手作りするなどして運営に反映し利用者から好評であった。法人の研修参加時には適時回覧を行い職員間で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し、年に2回、面談を実施している。面談では各個人の目標の達成状況を中心にフィードバックを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内(認知症ケア、排泄、食事、入浴介助等)において研修を企画し、認知症ケアの実践に活かした。また、職員がワンツーマンで確認しながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加により他施設との交流する機会を確保している。今年度は、感染症予防のため合同研修会は企画できていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居のご利用者にはご家族や担当ケアマネから情報収集し、状態把握のため様子観察とご本人の要望を傾聴するようにしている。情報についてはフロアノートへの記入や申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いに寄り添い、不安なことや要望について耳を傾けている。職員間での共有も忘れず、業務ノートやフロア会議で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーや以前のサービス事業所からも情報を集め、ご本人やご家族の意向をもとに必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般についてご利用者が自己選択と自己決定できるよう支援を心がけている。(入浴の時間やおやつの際の飲み物など)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は職員から積極的に声掛けを行い、普段の様子などをお伝えするよう心掛けています。何でも話して頂けるよう柔らかい雰囲気作りを行なっている。ご利用者に変化があった場合は、ご家族に連絡し報告を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまでに大切にされてきた馴染みの人とは、面会で会われたり電話をされ関係が途切れないように支援している。	以前のケアマネジャーや事業所から得た情報はアセスメントシートや情報シート(個別ノート)で記録を行い職員間で共有している。コロナ禍前にはご近所(婦人会)の友人の訪問、家族の同行のもとにお墓参り・買い物に行くなど馴染みの人や場所へ出かけていた。現在は電話での支援としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者、一人ひとりを理解し、把握に努めている。人間関係を配慮し、居心地の良い環境作りを心掛けている。ご利用者同士が楽しく過ごして頂けるようレクリエーションも実施している。また、職員が間に入りコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の要望をもとに他の介護サービスを紹介や説明を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で得た希望や意向などを職員間で情報共有し、対応できるよう努めている。半年に1回実施しているカンファレンス会議では、ご本人も出席して頂き希望や意向を話して下さる機会を設けている。	入所以前のケアマネや家族、本人から知りえた情報で折り紙や編み物、カラオケ等好きなこと、得意なことを聞き情報シートに記録し職員は情報の共有を行っている。情報シートの基にカンファレンスが行われて本人本位に検討がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅まで訪問し、情報を収集している。ご家族に入所時の際、これまでの生活歴についてアセスメント用紙に記入して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態(体温や血圧測定)や排泄状況、食事・水分量や活動状況等の把握に努めている。また、1日の状況や様子は個別のケースに記載し、看護師や職員間、ケアマネジャーと情報の把握・共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議ではご本人、ご家族、計画作成担当者及び居室担当介護職員が出席し、施設生活に対する意向や要望を聞き、現状に即した介護計画の作成、見直しを職員全員で行なっている。	利用者の身体状況の変化やケアの在り方はカンファレンスやモニタリングの基に個別ケアの状況や課題を、サービスか担当者会議(往診医からは事前に意見書を貰い)で話し合いがおこなわれている。見直された介護計画(短期6か月、長期1年)は家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア等について個別のケースに記載し、情報共有している。また、日々の支援で気づきとして個別ノートを作成し、利用者一人ひとりについて記載し、介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人及びご家族の意向を踏まえ、実行可能な方法を家族と事業所間で調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も地域への外出やボランティアの受け入れを控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と協力しながら、ご利用者、ご家族の希望する医師による継続的な医療支援を行なっている。	利用者全員が協力医の訪問診療を月2回受けている。歯科希望者の3割位が個別の往診日があり、他は必要時に往診依頼をしている。皮膚科・整形外科など他科受診は基本的に家族付き添いで受診し状況に応じて職員が受診同行している。看護師が毎日勤務し健康チェックと24時間の医療連携が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師が毎日午前と午後の1日2回来所して介護職と情報共有を行い、連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際はご利用者、ご家族に不安がないよう医療機関や関係機関と連携を図り、適切な情報が提供できるよう努めている。管理者、ケアマネジャーが病院へ面会に行き情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応方針を定め、入所時には書面で説明している。重度化に伴い、ご家族の意向を確認しながら、医療機関との連絡を図り、緊急時の対応についての確認している。そして、グループホームで可能な支援内容について職員間で共有している。	入所時に重度化や終末期について説明し同意を得ているが、現状は病院や法人の特別養護老人施設に移行希望の利用者・家族が多い。施設・病院と情報共有を図り家族の意向に沿い不安の無い様支援している。看取り実績は無いが、希望があれば対応可能であり看取り介護指針・マニュアル作成し看護師を中心に勉強会を定期的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職後、急変や事故が発生した時に備えて対応方法を伝えている。また、法人内研修で緊急時の対応についての研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練(夜間想定)を実施している。実際にご利用者を避難させる訓練を行っている。今回は消火器を使用した消火活動を行っていない。また、非常用食料を備蓄し、訓練の際は使用している。	コロナ禍で消防署の立ち合いは無いが、年2回の消防避難訓練を利用者と一緒に行っている。連絡網(ラインも考慮)を整備し、訓練を3回に分けて行い全職員が参加し、避難経路も確認している。備蓄は3日分倉庫に完備し期限チェックを管理者とチーフが行っている。地域住民の見守り等の協力体制を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアでの声掛けでは、丁寧な言葉かけや対応に努めている。そして、不適切な言葉かけについてはその場で注意し、フロア会議や業務ノートでの改善を図っている。また、事業所で不適切なケアについて研修を行っている。	年間研修の中で接遇や不適切な言葉かけについて職員研修を行っている。日常業務でも気づきが有ればOJTや業務ノートで気づき・改善点を記載し全員に周知促している。日常ケアでは排泄・入浴支援時は特に声掛けや羞恥心に配慮して職員間で連携して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との普段のコミュニケーションにおいて、要望を聞き取り、日常生活において自己決定できるように支援している。また、表出が困難な利用者については、普段の様子や選択肢を出して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、移動美容室を利用して頂く機会がありカラーやパーマその方に応じた希望を伺っている。ご本人が必要な身だしなみの物品は、ご家族に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など、手伝って頂けるご利用者は職員と一緒にいる。ご利用者のお好きなものをレクリエーションに取り入れ、お菓子レクリエーションなどを行っている。	外部委託の食材がクックチルドで届き、ご飯汁物を各フロアで作っている。皿を並べたり、盛り付けなど一緒にしている。行事食・おやつは注文できるが、時々希望を聴き、テイクアウトで寿司や中華料理を近所の店に注文して楽しんでもらっている。おやつレクはプリン・パフェ・ホットケーキを作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チャートを毎日記録している。食事量が少ないご利用者は看護師へ報告し一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後やナイトケア時に歯磨きや義歯の洗浄を行っている。また、歯科医の指導によりその人に合った口腔ケアを実施しており、必要な方には仕上げ磨きなどの介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに排泄のリズムを把握し、排泄の自立に向けた支援を行なっている。そのため排泄表の特記事項や個人ノートに記録し職員間で共有している。	日中はトイレで便座に座る支援を基本とし、排泄記録を基に個々に応じ声掛けしている。日中布パンツ1名、他はトレーニングパンツとパット併用の利用者であり、夜間は1名オムツに替えている。夜間のみポータブルトイレ使用者1名あり、定期巡回で個々に応じた排泄支援を行い安眠を重視して支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分を促したり、フロアを歩いて頂いたり簡単な運動を行なっている。(ラジオ体操や椅子体操など)便秘の改善が図れない場合は下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前、午後実施している。その日によって希望のタイミングに合わせている。また、季節に応じた入浴レクを実施している。(菖蒲湯やゆず湯など)	入浴は希望に合わせて午前・午後に見守り支援や介助を行っている。嫌がる人は浴室の脱衣場まで声掛けや時間を変えて対応するが、入浴後は「ありがとう」と言われる。ゆっくり浴槽に浸かり1対1で見守り支援し職員との会話を楽しんでいる。季節湯(菖蒲湯・ゆず湯)もあり、それぞれ好みの入浴剤を使用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、その時々に応じて休息を行なっている。夜間は各居室を巡回し、安心・安全に休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報シートをご利用者ごとにファイルしており、直ぐに確認できるようにしている。症状の変化や副作用が疑われる場合は、看護師や協力医療機関の医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カンファレンス会議でご家族に嗜好品や以前にされていたこと、お好きなことなどを聞き出している。そのことを活かす取り組みについて職員間で話し合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの防止のため外出はできていない。天気の良い日は、正面玄関前での散歩を行っている。	コロナ感染予防で以前のような外出は出来ないため、少人数ずつ、玄関先で外気浴・日光浴を行っている。室内で体操など生活リハビリを行い、天気の良い日は敷地内の法人の広い園庭を散歩し、季節の花や樹木を観て気分転換している。ザクラ・柿の木・しだれ桜があり車椅子で園庭を散策できる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金を自己管理されているご利用者がおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にお電話を希望されるご利用者がおられた場合、職員が電話を取り次いでいる。また、手紙のやり取りなどはご家族と協力して実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはご利用者の雰囲気に合わせて模様替えを行っている。季節感を取り入れ工夫している。	感染予防対策を徹底し、二酸化炭素測定器を設置、定期的に清掃と換気を行いエアコン・加湿器で室温調整している。各フロアリビングにはソファやこたつがあり寛ぎ、音楽やDVDで懐かしの曲と画像で楽しんでいる。隅に観葉植物の鉢植えがあり、壁には季節毎の作品「節分の鬼・和風」など、はり絵や折り紙と一緒に作り、次は居室に飾るお雛様を作る準備をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係にも配慮し、一人ひとりの居場所づくりを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など馴染みのあるものを置いている。使いくいものがあれば、ご利用者ご家族とも相談しながらご本人が居心地よく過ごせるような工夫を行なっている。	使い慣れた小物や家具(仏壇持ち込みもあり)化粧品を持参し、家族写真を飾っている。アルバム帳を開いて懐かしみ、趣味の物を飾り、自分好みにレイアウトしている。季節の衣替えは居室担当が行い掃除は日勤者が行っている。居室窓からは車や人通り・風景が観られ、庭の桜も眺められ季節を感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒予防のため、家具やベットなどの配置を配慮したり、歩行器や車いすの設置場所などご利用者一人ひとりに合わせて工夫している。また、自室と認識できるよう居室表札に写真を飾り工夫している。		